

## 天文学会春季年会・天文教育フォーラム報告

天文教育普及研究会との共催で、「天文教育フォーラム」が東京大学理学部を会場に、「宇宙を教室の中へー天文学の室内実験ー」というテーマで、体で感じることでできる天文学実験、教具、教材などの実演、展示が行なわれた。10年近く続けている「教育フォーラム」であるが、学校が春休み中ということもあり、参加者には天文学会会員、天文教育普及研究会会員以外の方も多数見受けられた。簡単な予稿集を150部用意したが、200名近い参加者があり、あっという間になくなってしまった。口頭講演（実演）は15本あり、90分ではとても収まりきれない盛りだくさんの内容であった。また、今回は実演だけでなく、並行してポ



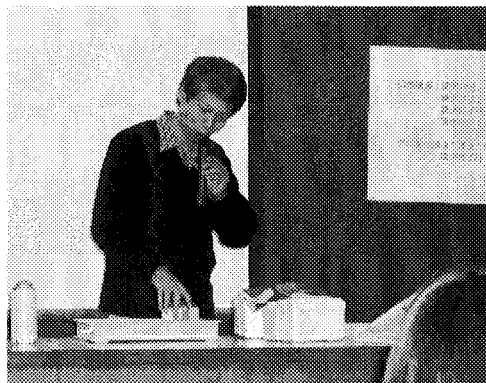
「ブラックホールマジックを実演する」  
原 寿男（天文学会・事務局）さん

### 「天文教育フォーラム」発表者一覧

1. 太陽系大探検, 企画・制作:財団法人日本科学技術振興財団 製作:科学技術振興事業団
2. B S アンテナを使った電波望遠鏡, 時政典孝(兵庫県立西はりま天文台公園)
3. 立体的な実像の観察から入る「望遠鏡を作って観る」講習会, 柴田晋平・大井園子・鳥貫真樹子・高野朋也・安平真規・我妻良一(山形大学・理学部)
4. Workpad/PalmPilot で見せる天文の世界, 矢治健太郎(かわべ天文公園)
5. 実験でさぐる彗星の謎, 菅原 賢(厚木市子ども科学館)
6. クレーターを作ろう, 高田淑子・須田敏典・西川洋平・小島志穂・小山裕幸・佐藤一行・豊川秀樹(宮城教育大)・柳澤正久・林 悟・私市成実・農澤健太郎(電気通信大)
7. 回折格子フィルムを用いたスペクトルの実験, 大林 均(ぐんま天文台)
8. 寒冷地仕様のレンズ作り, 福岡 孝(三瓶自然館)・作本 達也(新潟大学)
9. VRML による 3 D 天体现象の疑似体験とその教育利用について, 小山 洋・永井智哉(国立天文台)
10. コミック「日時計」の作り方, 坂元 誠(加古川少年自然の家)・栗野諭美(岡山天文博物館)・田島由起子(サイエンスデザイナー)・福江 純・横尾武夫(大阪教育大学)
11. コミック「ヤコブの杖」の作り方, 坂元 誠(加古川少年自然の家)・栗野諭美(岡山天文博物館)・田島由起子(サイエンスデザイナー)・福江 純・横尾武夫(大阪教育大学)
12. コミック「ナノ太陽系」の作り方, 坂元 誠(加古川少年自然の家)・栗野諭美(岡山天文博物館)・田島由起子(サイエンスデザイナー)・福江 純・横尾武夫(大阪教育大学)
13. コミック「ペーパー分光器」の作り方, 坂元 誠(加古川少年自然の家)・栗野諭美(岡山天文博物館)・田島由起子(サイエンスデザイナー)・福江 純・横尾武夫(大阪教育大学)
14. 正 20 面体天球儀, 佐藤明達(東亜天文学会)
15. Sun・Compass, 佐藤明達(東亜天文学会)
16. マジックでみせるブラックホール, 原 寿男(日本天文学会・事務局)
17. 小型～大型の実視角星座カード星写真を利用する実習を通して学ぶ星の学習, 山田幹夫(高松高等学院)
18. 「IRAF の GUI」, 志岐成友・小山 洋・縣 秀彦(国立天文台)・木下大輔(東京理科大)・鈴木文二(三郷工業技術高校)



「クレーターを作る」実験を、身を乗り出して見つめる参加者のみなさん



「会場で実際に氷を磨いてレンズを作る」福岡 孝（三瓶自然館）さん

スター展示も行なったが、こちらも盛況であった。

たまたま、天文分野以外の高校の先生が参加されていたので、感想をお聞きしてみた。

#### [地質の高校教師]

地質学会には、総数約 5000 名のうち 2 割 (1000 名) 程度は学校教育関係者の会員がいますが、天文学会に比して、教育普及に関する活動は低調です。近年、ようやく普及講演や各種の教育プログラムへの後援が行われるようになってきましたが、天文学会のように、研究者が強い関心を持って関与している状況ではありません。年会等では、教育関連のセッションは置かれていますが、「地学教育・地学史」という形であって、一般の研究者が多数出席するものではありません。ましてや、フォーラムという形で、研究者と教育関係者がインタラクティブに影響しあう場はありません。地質学を専攻している教員としては、たいへんうらやましい状況です。

#### [気象の高校教師]

天文学会における教育者、教育機関、との連携はとても発達していると言えます。気象学会を例

に取ってみると、学会における教育関係の発表はほとんどないと言っても過言ではありません。正直言って、発表にいても「場にそぐわない」感を受けます。

気象学会では、気象教育研究連絡会がこの春から発足して、本格的に教育についての取り組みを始めますが、10 年以上前から、天文教育普及研究会があって、多くの研究者と教育関係者の交流を促進してきた天文関係者とは隔世の感があります。

「身の回り主義」を唱える指導要領の中では、地質分野や気象分野と比較して、天文分野は歩が悪いかも知れない。ワクワクドキドキするような、あっと驚き、なるほどと思うような天文学の室内実験、実習を充実させることは必要だと思われる。天文分野では、それができるだけ教育・普及に関するネットワークが形成されている。他分野から羨望のまなざしで見られているのである。土壌はある、種はまかされている、きちんと育てる努力をすれば、花開くに違いないと思う。

鈴木文二

(フォーラム実行委員／三郷工業技術高校)